
パラレリズム

七色ちきん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
パラレリズム

【Nコード】
N8951K

【作者名】
七色ちきん

【あらすじ】
会社に使われる日々に疲れる女のグチから始まるプロローグ。日常と夢はパラレルなのか否かという疑問にそった小話。

疲れる女のブローグ

「どうしてだよ。」

女は、ひどくストレスをかんじていた。

「なんで私ばかりこんな忙しくてなきゃならないの。」

ほんとにつらかった。

女は会社員だった。入社から3年がたち、そこそこ仕事を覚え、社内事情も把握して円滑な人間関係を築き上げてきた。女の勤める会社は、一部上場、社員5000人以上の大手企業、年収は500万程度、世間的にはすごいじゃない！と羨まれるような企業だった。

3年経ち、スキルを身につけキャリアアップしたと女は思う。経済的にも安定してきた。

周囲も認めてくれるようになった。

彼らは口をそろえて言う。

『さすがだよね』

『いい会社で、実力もあって、ほんとにすごいよ』

『順調な人生ってこういうことをいうんだろっね』

そうやって、実家の母も、弟も、祖父母その他親戚も、友達も、

みんな示し合わせたように言うのだ。
暗に匂わせるのだ。

『あなたは本当に幸せ者だ。
まわりに感謝し、もつとがんばりなさい。
不平不満を言うなんてとんでもない。』

周りがそういうのもわかる。理解はできるのだ。
自分が他人という立場から自分をみたら同じように考えるだろう、と。

「それでも」、と女は思う。

実際はそんなにいいものではない。
社内では、まだ役職なしの下っ端で、飲み会だつて断れない。
ある程度一人で仕事をまわせるから、仕事をたくさんまわされて。
オーバーワークなのに、まだまだ仕事をまわされる。それでも断れない。

「こんなの、体のいい作業員だろ。」

女は、ひどく疲れていた。

そうしたところから女は夢を見るようになった。

夢の中で、彼女は城に暮らしていた。
おそらく、その国の王女なのだろうと思う。

城には多くの侍従達と、王子がいた。

女は、その国の国民すべてに愛されていた。

はじめて夢を見たとき、夢の中で目が覚めた。

というよりは、王子に起こされた。

夢の中の彼は少し驚いた表情をつくり、その後とても愛おしそうに女をみた。

躊躇いがちに手を伸ばし、女の頬に触れた。

『ずっと君が起きるのをまっていた。』

そして女を抱きしめた。

『僕と結婚してほしい。』

それから、女は夢の中で王子に会うようになった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8951k/>

パラレリズム

2010年10月15日23時00分発行